

志木二中だより

令和3年度11月号

令和3年11月1日(月)

～気持ち良い あいさつ溢れる 志木二中～

志木市立志木第二中学校

世界に目を向けてみる

校長 本 莊 真

ここへきて新型コロナ新規感染者数がぐっと減り、通常の生活に戻ることに期待がもてるようになりました。旅行などは国内でも難しかったのが海外にも行ける日が近いかもしれません。先月号で「ふれあい講演会」について書きましたが、講師の方々に共通していたことは「英語を使って仕事をしている」「英語を学んで仕事に生かしている」という点でした。たまたまそういう方が集まったという見方ができるかもしれません。しかし、私は今後さらに、どんな仕事に就こうと国際語としての英語を身につけることは必要になってくると思います。

今年度、中学校の学習指導要領が改訂になり、その経緯に「グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となる。」という一文があります。地球規模で物事を見て考える、そういうことが求められます。そして、これからは生きる人に必要な資質・能力として、中央教育審議会答申で次のような意見がありました。「グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、現在まで受け継がれてきたわが国固有の領土や歴史について理解し、伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力」



言語ができることももちろん大切ですが、自分とは違う容姿や考えを認めることや、日本のことや埼玉県、志木市のこともきちんと知っていること、そのうえでいろいろな人と力を合わせて（コミュニケーション）努力できる力が求められていると言えます。

もう30年前の話ですが、アラブ首長国連邦のアブダビ日本人学校に3年間赴任したことがあります。イスラム教の世界に身を置き、宗教上のことで驚いたことをいくつも覚えています。まだ薄暗い早朝、モスクからアザーンというお祈りの時間を知らせるサイレンのような音が流れます。一日に5回、これが流れるとタクシーの運転手はお客さんが乗っていても車を止め、道路上にゴザをひきメッカに向かい礼拝をします。曜日は土日月火水木金の順で、金曜日が日本の日曜日で休みとなり、学校は土曜日から始まります。これはなかなか慣れませんでした。他にも祝日は月の満ち欠けにより決まるので、直前までわからず誰が決めるのか「明日は休みとする」と夕方発表されます。なぜこんな話をしたかといいますと、教師という仕事であっても世界につながることもあること、そして自分の生きてきた中でのことだけを「常識」として捉えていると、そうではない「真実」に気が付けないことがあります。

志木二中は英語好きな人、得意な人が多い学校です。グローバル化がますます進んでいる今、ぜひ世界に目を向けてほしいと思います。これから中3生と進路選択にかかる面接練習をするのを楽しみにしています。